

文樂人の形芝居

大阪新町演舞場中繼

妹 脊 山 (山の段)

夜八・四〇

兩床を使つて
掛合で演じる

舞台は脊山、
妹山に櫻の満
開を見せその
咲を吉野川を
隔て、可憐な
戀が芽生え落
花のやうに青
春が散つてゆ
くといふのひ
やかな雅趣の
ある狂言です



◆脊山の段◆

大判事 相生太夫

三味線 道 八

久我之助 源 太夫

三味線 吉 佐

◆妹山の段◆

定 高 つばめ太夫

三味線 團 二郎

琴 喜代之助

雛 鳥 伊達太夫

元 さの太夫

三味線 重 造

武士の意地づくから紀州脊山の領主大判事清澄と大和妹山の領主太宰の少貳國人の後室定高とが國境の吉野川を境にして互ひに反目をつとけてゐたが清澄の倅久我之助はいつしか國人の遺子の雛鳥と相思の仲となつてゐた、當時國政を自由にしてゐた敵我の入鹿はその權勢をたのんで雛鳥を後宮に迎へようとして久我之助に難題をいひかけて自滅させると、雛鳥も久我之助に機を立て母の手にかゝつて

雷の花を散らすといふ筋です
なかでも親達の心も解け合ひ雛鳥の首が形見の爪琴にのせられ吉野川の川瀬を渡つて久我之助の許へ入入れするところなど人形芝居の獨壇上です